

一 般 質 問 通 告 事 項

(令和5年第3回白岡市議会定例会)

第1通告者

14番 遠藤 誠 議員

1 政策に緑を

- (1) 子どもたちは、呼吸に必要な酸素の生成を確実に知っているのか。
- (2) 事業所の緑化の規制や指導などはどうなっているのか。
- (3) 民家に緑地率などの規制はないが、指導はしてるのか。
- (4) 家庭の緑について、ケヤキやアカメガシワなど成長の早いものの管理の指導などができるのではないのか。
- (5) 「我が家のシンボルツリー」など緑に親しむ方策があるのではないのか。

2 「プラスチックを自然界に放たない」というキャンペーンをゼロカーボンに合わせてキャンペーンとして身近な行動を促すことはできないか。

3 幼児の水遊びの場を

- (1) 市内の公園で幼児の水遊びができる場がないようだがいかがか。
- (2) 市庁舎の南側の調整池などは他の目的で使えないのか。

第2通告者

6番 野々口 眞由美 議員

1 高齢者等のペットの対策について

飼い主の高齢化により取り残されるペットは、動物愛護の観点からだけではなく、地域環境の悪化など大きな問題となっている。そこで、当市の取組について伺う。

- (1) 福祉課、高齢介護課は、どのように現状を把握されているのか。
- (2) 環境課、福祉課、高齢介護課の現在の連携体制はどうなっているのか。
- (3) 3課が連携し未然に防ぐ取組を求めるがいかがか。

2 さらに市民に優しい窓口対応に向けて

市長への手紙にも職員の対応に関する意見が度々寄せられるよう

に、職員には市役所を訪れる市民に分かりやすく丁寧な対応が求められるのは言うまでもない。しかし、特に1階は雑音が多いために上手くコミュニケーションが取れないこともある。そこで、当市の取組について伺う。

- (1) 聞き取りづらいとの声が届いているが、どのような対応をしているのか。
- (2) 指向型のスピーカーを導入し、さらに市民に優しい窓口対応を求めるがいかがか。

第3 通告者

13番 菱 沼 あゆ美 議員

1 交通安全対策について

- (1) 通学路や生活道路などで、安全対策を要望されている横断歩道は何か所あるか。また、感謝型電柱幕「止まってくれてありがとう」は何か所に設置されているか。現状を伺う。
- (2) 感謝型電柱幕の設置を市全体で強力に推進することで、交通安全のマナー向上や事故防止対策になると考えるが、いかがか。
- (3) 市内の自転車が関わった事故はどのくらい発生しているか。自転車用ヘルメットの効果を広げることも重要ではないか。市としてヘルメット購入に助成を行うべきではないか。
- (4) 交通安全教室をあらゆる世代が受けられるように工夫してはどうか。自転車事故防止につながると考える。

2 母子への支援について

- (1) ア 現状として、どのくらい低出生体重児は生まれているか。また、支援制度はあるか。
イ 子育て支援として、リトルベビーハンドブックを配布してはどうか。
- (2) ア こども家庭庁の今年度予算には新規事業や拡充されたものがある。特に「産後ケア事業の利用料減免」と、「低所得の妊婦に対する初回産科受診料の支援」については、どのような実施状

況か。

イ 周知の工夫が必要ではないか。

3 災害時の庁舎の非常用電源について

- (1) 庁舎における災害時の停電に備える非常用電源は、どのようなになっているか。設備機能や設置場所などについて。
- (2) 早急に備えるべきではないか。緊急防災・減災事業債などの活用も必要ではないか。
- (3) 燃料については、非常時の確保に向けた燃料販売事業者との協定締結などを進めてはどうか。

第4 通告者

10番 加藤 一生 議員

1 市の越水への対応は。

今年も夏に想定される豪雨時の越水に対してどういう対応がなされているのか。

2 天使幼稚園周辺の道路整備状況は。

天使幼稚園の前の道路と東北自動車道との結接点周辺は、同幼稚園の通園路であり、南小学校及び南中学校の通学路にもなっている。加えて、車両の通行も比較的多く、交通事故等の発生が危惧される箇所となっている。市は、車歩道の分離化を含め、安全をどう確保しようとしているのか。

第5 通告者

3番 細井 藤夫 議員

1 市内の安全確保と安心感向上の取組を

- (1) 消火栓等の防火設備、カーブミラーについて、点検をそれぞれの程度の周期で行っているか。
- (2) 今後どのように「市民の安心感」を高めていくか、具体策があれば伺う。

2 「新生児誕生お祝い事業」について

- (1) 白岡市の「新生児誕生お祝い事業」について、新生児の離乳食開

始にあわせるように給付時期を変更することは可能か？

- (2) 農業振興のために農作物のリピート購入やギフト需要を増やす取組が必要と考えるが、販売促進の取組をする考えはないか？
- 3 「白岡市パートナーシップ宣誓制度」の近隣連携について
「白岡市パートナーシップ宣誓制度」は、現在のところ白岡市の施策であり、転出・転入についての配慮が行われていない。近隣だけでも相互連携をするなどして「一度組んだパートナーシップを尊重できる」取組をするよう、呼び掛けをしてはどうか。

第6 通告者

4 番 浜 口 清 志 議員

- 1 難聴者のための補聴器助成制度の実施について
 - (1) 最近実施した「高齢者等実態調査」の結果をどのように捉えているか。
 - (2) 都道府県や市町村の助成制度の動向について
 - (3) 市の健康診断でも聴力検査などを取り入れてはどうか。
 - (4) 助成制度の実施に当たって所得制限をなくせば幅広い市民のためになると考えられるがいかがか。
 - (5) この問題に取り組む市長の考えを伺う。

第7 通告者

1 番 尾 嶋 一 雄 議員

- 1 市内小学校、中学校での金融教育に関する授業の実施状況について
 - (1) 令和4年度における市内小学校、中学校での金融教育に関する実施状況（年間実施時間、授業の主な内容・担当者）を伺う。
 - (2) 今後、金融教育に関する授業の内容をどのようにグレードアップしていく予定か。
 - (3) 金融教育に関する授業を外部専門家や関係団体と連携することは考えているか。
- 2 総合運動公園の利用状況について
 - (1) 過去5年間の用途別（テニスコート・野球場・陸上競技場・多目的広場）の利用状況（利用件数）と同期間の用途別年間使用料収入、

施設全体の運営に関する年間費用はどのようになっているか。

- (2) 運営委託会社の選定方法（入札・随意契約）について伺う。
- (3) 陸上競技場の天然芝を人工芝に変更し、夜間照明を設置することで、市民の利用向上を図ることが考えられるが、市の見解を伺う。
- (4) 市内施設におけるスポーツ振興くじ助成金の利用実績を伺う。

第8 通告者

17番 江原浩之 議員

1 県の子育てギフトへの対応について

- (1) 県が実施する子育てファミリー応援事業の取組状況はどのようになっているのか。
- (2) 当事業の目的を果たすためには、対象者への周知が肝要であるが、子育て世帯に確実に支給するために周知及び配付をどのように考えているのか。

2 白岡における梨の現状と今後について

- (1) 梨栽培面積の推移と梨農業従事者の現状と支援策の状況は。
- (2) 今後、梨の栽培手法と圃場拡大に向けた市の取組をどのように考えているのか。

第9 通告者

2番 嶋田友一郎 議員

1 子育て支援の拡充について

- (1) ランドセルや制服、学校指定品の購入など、就学に必要な費用が子育て世帯の金銭的負担となっている。就学援助制度による公的支援も存在するが、適用範囲の緩和などにより、援助を拡大することは可能か。
- (2) 中学校指定の靴を探すのに苦勞をするとの声を聞いている。学校校則を現在の情勢に合わせることで、負担の軽減につなげることもできる。各校に校則を見直すように指導を行う予定はないか。

2 少子高齢化による児童数の減少とその対策について

- (1) 大山地区は少子高齢化による児童数の減少が市内の他地区よりも顕著である。①子育て支援重点地区の設定、②県営住宅入居条件の

子育て世代への開放、③空き家の活用などにより児童数の増加につながる施策は可能か。

(2) 大山小学校は小規模特認校に指定され市内全域からの入学が可能となっている。他地域からの入学希望者を得るためには特色ある教育実践が必要であると思うが、他の小学校と比較してどのような特色ある教育を実施しているか。

(3) 埼玉県教育振興基本計画において小・中一貫教育を推進するとされている。例えば、少人数制の義務教育学校を開設することにより、特色ある学校として教育を実践することはできないか。

3 学校教職員の働き方改革について

教職員の働き方改革を進めるのに当たり、白岡市においても仕事の効率化の一環として校務支援システム導入などのデジタル化が進められている。一方で、このシステムの導入及び運用において教員の負担の増加が懸念される。そこで、支援員等の配置を考えているか。

第10 通告者

9番 齋藤 信治 議員

1 養護教諭の働き方改革について

教師の働き方改革が叫ばれる中、養護教諭についての議論は聞こえてこない。【令和3年度埼玉県小・中学校働き方改革に関する実態調査】において養護教諭が学校内にいる時間は、10時間超となっている。

(1) 養護教諭とはどんな存在なのか。養護教諭の資格、配置基準や業務内容などについて伺う。

また、保健室にやってくる児童生徒は何人ぐらいか。その理由はどのようなものか。

(2) 保健室は、困難を抱えた子どもたちの居場所になっている。保健室はいつでも行ける。養護教諭はいつでもいる。たまった思いを口にできる場となっている。保健室があり、養護教諭がいるということは大変重要であると考えがいかがか。

(3) 市内の小中学校で養護教諭は一人しかいない。病欠などでも交代要員がいない。養護教諭の複数配置を進めることはできないか。

2 ありの実館・東ありの実館の今後について

ありの実館(昭和63年開館)及び東ありの実館(平成9年開館)は、それぞれ開館から35年及び26年経過し、大規模改修の必要性が見えている。施設利用者も保護者も高齢化している。現在は、”就労継続支援B型”だが、”生活介護”が必要な利用者も現れている。

- (1) こうした現状を認識しているか。
- (2) ”就労継続支援B型”では対応できない利用者が多数いることから”生活介護”の施設にすることが求められている。例えば、ありの実館と東ありの実館を一体化し、一階は生活介護、二階は就労継続支援B型とする第三ありの実館を新設できないか。
- (3) ありの実館、特に東ありの実館でスタッフが不足している。社協全体の問題でもあるかと思うが、どのように対処するのか。
- (4) 3月議会の質問「福祉作業所で作った製品を市役所1階ロビーで販売できないか。」について、進捗状況について伺う。

第11通告者

12番 中山 廣子 議員

1 学校に登校することが困難な児童生徒の支援の推進について

- (1) 本市の不登校になっている児童生徒の状況を伺う。
 - ア 学年別で、(ア) 不登校の人数
 - (イ) 相談室を利用している人数
 - (ウ) 教育支援センターに通っている人数
 - イ 不登校の子どもや家庭の状況の把握はどのようにしているか伺う。
 - ウ 教育支援センターを利用しない子どもに対しての支援はどうしているか伺う。
- (2) 教育委員会が不登校の子どもの保護者であれば誰でも自由に参加できる「保護者の会」を設置し、そこにスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーをコーディネーター役として派遣し、不登校の子どもの保護者を支援していくことが必要だと思うがいかがか。

- (3) 教室に行きづらくなった児童生徒が学校内で落ち着いて学習できる環境「スペシャルサポートルーム」を、市内の全ての小中学校に設置する必要があると思うが、現在の設置状況と今後の取組について伺う。
 - (4) 学校の授業を、①不登校の子どもの自宅や②校内のスペシャルサポートルーム等、また③教育支援センターに配信し、オンライン指導できる指導体制を確立すべきだと思うが、その現状と今後の取組について伺う。
 - (5) 不登校の生徒の高校進学を支援するため、①自宅や②スペシャルサポートルーム③教育支援センター等での“学び”を、確実に学校での成績に反映させることが重要であると思うが、本市内の中学校における現在の状況と今後の取組について伺う。
- 2 帯状疱疹ワクチン接種に助成を
- (1) 令和4年第1回定例会で「帯状疱疹を予防するために」との一般質問をした。それから社会の状況も変化してきたため、再度質問を行う。これまで帯状疱疹という病気のことや、ワクチンや、助成についてなど、市民から問い合わせはあったか。
 - (2) 症状に個人差はあるが、帯状疱疹に罹患した人が身近に多くなっている。この状況を市は把握しているか。これからどのように啓発していくか伺う。
 - (3) ワクチン接種に助成する自治体が増えている。助成導入に至った経緯や導入するに当たってのハードルをどのようにクリアしたか調査すべきと考えるがいかがか。そして、本市も助成を検討すべきと思うがいかがか。
- 3 EQ（心の知能指数）教育について
- (1) 職員研修の現状と課題を伺う。
 - (2) その研修の中で先進的なものはあるか。
研修の効果の測定はどのように行っているか伺う。
 - (3) 市の職員研修にEQ教育を導入することを検討してはいかがか。
見解を伺う。

- (4) 学校教職員の育成の現状と課題、先進的な取組があるか伺う。
- (5) 教育委員会として、教職員教育でのEQ教育についての見解を伺う。
- (6) 子どもたちへの教育の中で、このEQ教育を活用していくことを提案する。教育委員会の見解を伺う。

第12 通告者

5 番 和 賀 正 義 議員

1 要介護者の必要とするサービスが適切に提供されるような白岡市高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画の策定について

本市は人口の微増が続いているが、出生や若い世代の転入の一方、特別養護老人ホームなど施設に転入してくる高齢者も多い。要介護者や高齢者の増加の推移を確認したところ過去、現在、未来とも増加傾向であり当面の間、高齢者の人口がますます増えていく。高齢者や要介護者のなかには状態が急激に悪化する人もいるが、介護認定（変更）申請から認定までは1、2か月かかると聞いている。

- (1) 骨折などにより急激に健康状態が悪化した場合、介護サービスの申請から認定までの期間はどのぐらいなのか。
- (2) ケアマネージャーによっては、認定前に介護サービスを見切り発進で使う者もいると聞き及ぶが、要介護者はケアマネージャーを選べない現状がある。ケアマネージャーの質の向上、臨機応変さ、対応の統一についてどのように考えるか。
- (3) 白岡市高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画の期間が今年度で終了する。どのような成果があったか。
- (4) 介護を必要とする高齢者に対して、白岡市高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画と比較して第9期介護保険事業計画ではどのように真に必要なサービス（需要）を把握し、サービスを確保・提供していくのか。

2 市の情報発信について

- (1) 市民への市政情報の周知について、どのような手法を用いて行っ

ているのか。

- (2) 情報発信の手法としてのホームページやSNSの閲覧数はどのくらいなのか。
- (3) 広報しらおかやSNSをあまり利用しない人に対する情報発信として、市民が多く利用する駅にデジタルサイネージ等を設置して積極的に情報発信を図ってみてはどうか。

第13 通告者

7番 石 渡 征 浩 議員

1 投票率向上に向けた取組について

- (1) 市議会議員選挙の投票結果について、総体、年代別、投票所別の投票率及び期日前投票の割合について伺う。
- (2) 70代をピークに80代から投票率が下がる傾向をどう捉えているか。投票率の向上に向けた選挙管理委員会の取組について伺う。
- (3) 投票しやすい環境の整備に向け、以下の取組について、見解を伺う。

ア 投票所の見直し再編による拡充について

イ 利便性の高い場所への期日前投票所及び移動投票所の設置について

ウ 不在者投票指定施設の増設について

エ 期日前投票割合の増加に合わせた選挙公報発行の早期化について

- (4) 若年層の投票率が相対的に低い背景・理由をどう捉えているか。投票率の向上に向けた選挙管理委員会の取組について伺う。

2 災害時対応力の強化と事前周知について

- (1) 白岡市地域防災計画の活用実績及び策定効果は。
- (2) 過年度議会定例会の一般質問で提案した避難所の体制について、以下アイの進捗状況について伺う。

ア 市民の避難意向（どの避難所に避難する想定か）の把握

イ 避難所ごとの市役所組織と各自主防災組織の組み合わせ

- (3) 甚大な被害をもたらす災害が発生した場合において、自主防災組織から見た場合の災害対策本部、各課、消防署、消防団など各組織の役割と相互連携はどのような想定か。

3 ふるさと納税の取組について

- (1) 令和3年度及び4年度の実績について、寄附額、税収の減少分、総事業費、交付税額、最終収支それぞれについて伺う。
- (2) 返礼品のラインナップを充実させるために、市内事業者に対して積極的に個別アプローチするべきと指摘したが、その後の取組状況について伺う。
- (3) 同様にガバメントクラウドファンディングの取組状況は。

第14 通告者

16番 黒 須 大 一 郎 議 員

1 未来を見据えた社会基盤を（Ⅲ）

- (1) 昨年8月の一般質問で答弁のあった県等の関係部局との定期的な協議の実施状況と令和5年度埼玉県予算等に対する白岡市からの要望事項についての詳細は。
- (2) 白岡駅西口駅前広場の整備計画が示された。県道145号白岡停車場南新宿線は、ロータリー部分や周辺部を含めどのようになるのか。また、県との協議状況は。
- (3) 白岡駅西口駅前広場整備計画に中心市街地の活性化・賑わいを生む新たな会社（店舗）や人を呼び込む（滞留する）構想・政策はあるのか。また、連動する計画があるのか。

2 柴山沼を水辺の観光地に

- (1) 柴山沼及び周辺を観光地化するため、駐車場増設設置の調査を昨年8月には既に実施しているとのことだが結果は。
- (2) 柴山沼にカヌーサップ等が利用できる水辺の施設と釣り人が利用しやすい栈橋等を設置して安全性と環境保全が図られるようにできないか。

3 地域部活動推進事業の現状と課題は

- (1) 本事業の予算は、県からの委託費とクラウドファンディングが主

財源のようだ。クラウドファンディングを含め、本事業の予算状況と見通しは。

- (2) 本事業でない部活動的な団体等に参加している生徒に対する支援等はあるのか。
- (3) 児童生徒が自身の可能性にチャレンジできる興味を体験できるプラットフォームを作らないか。

第15 通告者

11番 松本栄一 議員

1 ふるさと納税をどうするのか。

ふるさと納税額の全国の推移では、2017年度からの4年間で倍増し、2021年度では利用総額が8,300億円になっている。全国の市区町村では返礼品を充実させて、寄附金を増やす動きが加速している。

- (1) 当市は、2016年度の「9,256万円」の寄附が最高額であるが、直近の寄附額、寄附件数、高い寄附金に対する返礼品を各年度別に伺う。

また、寄附額に対しての住民税の減収の推移は、どのようか。

- (2) 返礼品競争は「自治体の努力を超えている」として、県内では返礼品の提供をやめている自治体もあるが、当市はどうか。
- (3) 企業版ふるさと納税の活用期間を「2025年3月31日まで」としているが、企業への当事業内容の発信をどのようにするのか。
また、期間を設定しているが、その後はどうするのか。

2 U字溝の蓋掛けについて

- (1) U字溝の蓋掛けは、依頼件数の減少になかなかつながらないが、現在の進捗状況は。また、U字溝の蓋の種類も複数あると聞くが、使用状況を伺う。
- (2) 幅の狭いU字溝の蓋掛けをどうするのか。数年前に依頼した地区もあると聞くが、どのように措置するのか。

1 小中学校の給食費無償化について

- (1) 自民党「こども・若者」輝く未来創造本部は今年3月29日に小中学校の給食費無償化を盛り込んだ提言をこども政策担当大臣に提出し、同大臣が同月31日に発表した「こども・子育て政策の強化について（試案）」では「地方自治体の取組への支援」としての「学校給食費の無償化に向けた」方向性が打ち出された。この点、執行部の展望を伺う。
- (2) 国によるバックアップの枠組が構築された場合には、小中学校の給食費無償化を導入するか。市長に伺う。

2 野牛の開発構想について

- (1) これまでの経緯について伺う。
- (2) なぜ進捗が止まっているのか。
- (3) 市長の意志を伺う。

3 民間事業者の開発による団地の道路について

- (1) 旧「住宅地造成事業に関する法律」（旧宅造法）第4条にいう住宅地造成事業の施行の認可について伺う。
- (2) 農地における道路位置指定について伺う。

4 白岡駅東口周辺における水害対策について

- (1) 溢水箇所^{いっすい}とその対策について。
- (2) 被害に遭われている住民から土地区画整理事業の進捗を急いで欲しいとの要望があるが、どうするのか。

5 防犯カメラの拡充について

- (1) 市の公共施設における設置状況について伺う。
- (2) 通学路等の道路における設置状況について伺う。
- (3) 行政区独自での設置状況について伺う。
- (4) その他の市内の設置状況（国道・県道、JR・NEXCOその他民間施設等）について伺う。また、水害対策としての河川・水路のカメラ設置状況についても伺う。
- (5) 導入コスト及びランニングコストについて伺う。

- (6) 防犯カメラの設置を拡充してはいかがか。
 - (7) アンダーパスの水位監視兼用としての防犯カメラとして設置する場合にはいかがか。
- 6 公有財産の有効活用について
- (1) 第30回公民館フェスティバルの駐車場について。
 - (2) ゆうちょ銀行ATM跡地の利用について。
 - (3) こもれびの森の飲食の解禁状況について。
- 7 生ごみ処理機器の助成について
- (1) 再開できていない理由を伺う。
 - (2) さらに普及を図るために、再開してはいかがか。
- 8 教育長の教育観について
- (1) B i l d u n g *的教育観と e d u c a t i o **的教育観のいずれに近いか。また、いずれの教育観を重視した公教育を展開するか。
 - * B i l d u n g : ドイツ語で「教育」の意。
 - ** e d u c a t i o : ラテン語で「教育」の意。
 - (2) (1)に関連して、市の公教育において知育と徳育のいずれを重視するか。例えて言えば、鋏を研ぐことに専念するのか、それとも鋏の使い方も教えるのか。
 - (3) (1)(2)に関連して、市の公教育において独創性と協調性のいずれを重視するか。経済的な観点からいえば、企業家育成か労働者育成か。
 - (4) 県教育委員会の高橋史朗教育長(当時)から受けたくんとう薫陶の内容は。特に、歴史教育についてはどうか。
 - (5) 国際人の育成について見解を伺う。
 - (6) 公教育における外国語教育の目的をどのように考えているか。
- 9 公教育における外国語教育について
- (1) 外国語習得の要諦は何と考えるか。また、近時の学校英語教育への批判(特に、発音軽視と英語脳不育成)についてどのように考えるか。
 - (2) 英語の発音(英式発音、米式発音、その他の方言の発音等)に関

する教育方針はどのようなものか。

- (3) 白岡市英語指導助手設置規則第1条の「英語教育の充実」とはどのような趣旨か。(1)(2)の観点からすればJETプログラムの応募要件は不適切と考えるが、いかがか。
- (4) (1)(2)(3)の観点から、本市の小学校及び中学校における公教育における外国語教育の現況を伺う。
- (5) 市長に国際交流事業の推進に関する考えを伺う。

10 教育委員会の徹底的な改革に向けて

- (1) 横松教育長が就任して、いじめや不登校など学校で起きている問題について教育委員会の対応等を教育長に伺う。
- (2) 「開かれた教育委員会」をどう実現するのか。

第17 通告者

15番 中川幸廣 議員

1 学校事故について

- (1) 運動会や体育祭更にはクラブ活動での学校事故で、市内の小・中学校におけるここ数年の発生件数と事故の内容について伺う。
- (2) 事故発生後から完全回復までの期間と後遺症が残らなかったのかの有無について伺う。
- (3) 事故の防止対策はどのように図られているのかについて伺う。

2 新白岡ヤオコー脇の市道の横断歩道の設置について

新白岡ヤオコー脇の市道は付近にテニスコートや勤労者体育センターがありヤオコーとの横断が絶えない。しかも寺塚方面からの車両走行時は登り坂になっていて先が見えにくく、横断している人が直近にならないと見えない。事故防止の点から、

- (1) 横断歩道を新設できないか。
- (2) 寺塚方面から走行する車両に対して注意喚起の「表示板」の設置ができないか。